

平成29年度 第8学年「14歳のよのなか挑戦」

ア テーマ

「社会人のかっこよさや仕事のやりがい、そのために今何が必要かを感じよう
～14歳のよのなか挑戦をとおして～」

イ 目標

- 一人前の社会人・職業人になるためには、人間性を高めることが大切だということに気付かせる。
- 働く目的や意義について考えさせ、望ましい職業観を育てる。
- チームワークの大切さに気付かせる。
- 現在（中学時代）の学びの大切さに気付かせ、学習意欲の向上につなげる。

ウ 第8学年で目指す基礎的・汎用的能力を身につけた生徒の姿

人間関係形成・社会的能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
働く意義や役割について理解し、何のために学んでいるか、深く考えることができる。	自分の長所や短所を認識し、より長所を伸ばそうと努力することができる。	自分の行動を振り返り、問題点を改善しながら自分にできることを行うことができる。	「14歳のよのなか挑戦」を通して自分の生き方や将来（進路）について考えることができる。

エ 活動の実際

○ 組織作り

本年度から、「地域をあげて子供たちを育てる」という趣旨のもと、日向商工会議所、日向市キャリア教育支援センターと学校が三者で進めていく取組を始めることとなり、組織作りから行った。

大王谷中等部社会体験革新プロジェクト会議

- ・日にち 第1回（3月13日）、第2回（3月17日）、第3回（4月10日）
第4回（4月25日）、第5回（5月8日）、第6回（5月16日）
- ・メンバー 日向商工会議所 黒木専務、日向市キャリア教育支援センター 水永所長
教務主任、7年学年主任、8年学年主任
- ・内容 趣旨・概要検討、先進地域の内容把握、名称検討ほか

メディアとの協議会

- ・日にち 5月24日（水）
- ・メンバー ケーブルメディアワイワイ、宮崎日日新聞、夕刊デイリー
プロジェクト会議メンバー、7・8学年職員
- ・内容 取材に関して、取材の番組化について、取材の新聞化について、意見交換

受入予定事業所との意見交換会

【第1回】

- ・日にち 5月31日（水）
- ・メンバー 受入予定企業経営者、日向商工会議所、日向市キャリア教育支援センター
8学年職員
- ・内容 「14歳のよのなか挑戦」趣旨説明、先進地域（富山県）のビデオ視聴
意義、ねらい、具体的活動の説明ほか

【第2回】

- ・日にち 8月10日（木）
- ・メンバー 受入予定企業経営者、日向商工会議所、日向市キャリア教育支援センター
8学年職員
- ・内容 「14歳のよのなか挑戦協力事業所の会」設立（26事業所参加）
会長；高木亮輔氏（株）マルイチ代表取締役会長
副会長；松木真一氏 永寿園施設長
田崎 澄氏（有）天領うどん代表取締役
協力事業所の認証について、意見交換

体験モデル作成

- ・日にち 9月8日(金)、9月11日(月)、9月14日(木)
- ・モデル事業所

① 小売業	マルイチ	担当【飯干、上妻】
② 建設業	内山建設	担当【溝口、藤野】
③ 老人介護	永寿園	担当【濱田、黒木】
④ 保育	富高保育園	担当【緒方、松本】
- ・内容 業種別による3日間の体験モデル作成

○ 授業

学 習 内 容 及 び 活 動	
課 題 に 出 会 う	1 キャリア教育の流れについて知る。 ○日時 9月12日(火) 5・6校時 ○目的 ・本年度より、リニューアルした社会体験学習について、教師、生徒ともにその趣旨、目的を十分理解して、体験に臨めるよう基礎作りを行う。 ・自分の体験する職場を知り、ゴールイメージを持ち、今後の事前指導から社会体験にいたるまでを取り組めるようにする。 ○内容 ①講演 「14歳のよのなか挑戦」について 水永正憲 氏(キャリア教育支援センター長) ②生徒決意表明 椎葉祐斗(8の1) 川村美愛(8の2) ③体験事業所発表 ④考えよう 社会体験学習までにどんな事前学習を行えばよいのか? ⑤がんばるぞコール 中山洋助(8の2)
	2 体験する職場の基礎知識を調べる。 ○日時 9月19日(火) 6校時 ○目的 ・自分たちの体験する職場について、詳しく知ること、社会体験への意欲を高め、意識を向上させる。 ○内容 - ホームページ等で事業所の社長名、場所、仕事内容、企業理念等を調べる。
解 決	3 かわいい大人の職業体験を聞く。 ○日時 9月26日(火) 6校時 ○目的 ・「14歳のよのなか挑戦」に向け、働くことの本質を理解する。 ・中学生としてではなく、一仕事人として参加する心構えをつくる。 ○内容 - 講話 ① 松木真一氏(「永寿園」施設長) ② 安藤 靖氏(「創建」代表取締役) ③ 黒木正一氏(日向商工会議所専務) ※各クラス、移動して2名のお話を聞く。



事前学習を考える生徒たち

今回の事業所決定については、「選ばせない社会体験」で指名されたところに行くという形をとった。進路が揺れ動く中学生段階では、自らの将来をとらえる視野を広げるための支援の方が大切であるという考えからである。



体験する職場を調べる生徒



安藤社長(創建)の講話

課 題 解 決	4 大人のマナーをマスターする。 ○日時 10月3日(火) 5・6校時 ○目的 ・社会体験当日に、必要な所作、マナー、接遇ができるように学ぶ。 ・学校生活を含めた日常生活で、好感を持ってもらえるような態度を育てる。 ○内容 講話・実技 講師：大山由美 氏 (ビジネスマナー講師、接遇アドバイザー) 演題「ビジネスマナーを制する者は仕事を制する」 ・第一印象、マナー、正しい姿勢ほか
	5 業種別に仕事の基礎を専門家から学ぶ。 ○日時 10月17日(火) 5・6校時 ○目的 ・自分の体験する職種に関する具体的指導を専門の高校、事業所の方から学ぶことで、体験初日にスムーズに入れるようにする。 ○内容 業種別事前学習(5校時) ①子どもへの接し方【保育】 なないろ保育園 園田修一 園長 ②高齢者への接し方【介護施設】 門川高校福祉課 内村加奈恵 教諭 ③患者への接し方【病院、消防】 聖心ウルスラ学園看護専攻科 豊田愛・アントニー 教諭 ④衛生の知識【スーパー、飲食・菓子店】 延岡学園調理科 谷本浩二・奥村恵 教諭 ⑤安全の知識【製造業、建設業】 旭化成日向事務所 名田篤生 課長代理 ⑥取材の仕方やまとめ方【マスコミ】 宮崎日日新聞日向支所 小谷 実 市局長 ⑦清掃の仕方【全般】 グローバルクリーン 税田和久 社長 内容のまとめ(6校時) 6 14歳のよのなか挑戦の事前確認を行う。 ○日時 10月20日(金) 6校時 ○目的 ・3日間の社会体験学習の成果が十分あがるように打合せを行う。 ○内容 名札記入、心得配付、持参物・連絡方法確認、交通機関・時間確認ほか



笑顔の練習をする生徒

今回のマナー講座は、社会体験のみならず、これからの日常生活全般で役立つことをテーマに行われた。



衛生の知識講座の一場面



腕章授与

協力事業所の会の基金を使って、腕章、ポスターを製作していただいた。

腕章贈呈式

○日時 10月23日(月)
16:45～

○会次第

1. 開会の言葉
2. 来賓紹介
3. 腕章授与
代表 中山洋助(8の2)
矢野瞳月(8の2)
4. 激励の言葉
協力事業所の会会長
高木亮輔様(マルイチ会長)
5. 決意表明
代表 若本健汰(8の3)
6. 閉会の言葉

課題解決	7 「14歳のよのなか挑戦」を実践する。 ○日時 10月24日（火）～26日（木） ○事業所（55社） 【14歳のよのなか挑戦協力事業所の会】（27社） ①伊勢ヶ浜保育園 ②富高保育園 ③永寿園 ④社会福祉協議会 ⑤市消防本部 ⑥マルイチ江良店 ⑦マルイチ大王店 ⑧マルイチ財光寺店 ⑨天領うどん梶木店 ⑩天領うどん新生町店 ⑪天領うどん財光寺店 ⑫天領うどん鶴町店 ⑬ Sweet Soul ⑭九州電力日向営業所 ⑮耳川広域森林組合 ⑯内山建設 ⑰創建 ⑱中島鉄工所 ⑲八興自動車 ⑳県機械技術センター ㉑ミツイシ ㉒宮崎日日新聞日向支局 ㉓タ刊デイリー日向支社 ㉔喜重会館 ㉕中村眞税理士事務所 ㉖日向衛生公社 ㉗ひむか Biz 【協力事業所の会以外】（28社） ①なないろ保育園 ②大王谷保育園 ③日向保育園 ④大王谷スカイホーム ⑤JA 日向福祉センター ⑥日向病院 ⑦コープみやざき財光寺店 ⑧ながの屋 ⑨日吉だんご ⑩福丸縁 ⑪クランベリー ⑫清菓堂 ⑬大浜石油 ⑭虹工房 ⑮旭建設 ⑯藤屋印刷 ⑰ノア美容室 ⑱ヤマダ電機日向店 ⑲宮崎サティューティー美容専門学校 ⑳ホームワイド財光寺店 ㉑ユニクロ ㉒メリッサ ㉓日向市立図書館 ㉔明林堂 ㉕ベルフォート日向 ㉖しまむら ㉗日向市役所環境政策課 ㉘華りん
まとめ伝える	8 社会体験活動のまとめを行う。 ① 感想、発表原稿・発表プレゼンテーションの作成、発表練習 （10月27日～12月6日） ② 学級発表会 ○日時 12月7日（木）5校時…参観日 ○目的 ・体験で学んだことを整理し、考えを深める。 ・一人一人が自分の体験を堂々と発表できる精神力を養う。 ・限られた時間の中でのプレゼンテーション能力を高める。 ○内容 体験事業所別に3クラスに分かれ（自分のクラスで発表するとは限らない）、作成したプレゼンを発表する。 タ刊デイリーとは？ 午前 1. イベントなどの企画の取材 午後 2. 取材先でのことを記事にする タ 3. 本社に記事を送り「新聞」にする 4. 配達員が配達する 出勤 取材 記事にする 帰宅 タ刊デイリー体験者のプレゼン  よのなか教室のマスコットキャラクター 「14歳のよのなか挑戦」をただの体験だけで終わらせないためにも、この「まとめる・伝える」段階を充実させたものにさせることが大切である。そこで、様々な方法で、生徒たちにアウトプットをうながし、体験や考えを自分のものに昇華させることが必要と考え、様々な場面で発表の機会を設けたり、掲示物で常に自分たちの学習してきたことが振り返られるよう工夫した。 その他（発表の場の設定） ○大王谷地域こどもフェスティバル（11月11日） 発表：田中りりあ（8の1） 機器操作：中山雛那（8の2） ○日向市青少年意見発表会（1月21日） 発表：園田和子（8の2） 機器操作：末永愛結（8の2） ○新入生保護者説明会（2月7日） 発表：田中りりあ（8の1） 園田和子（8の2）

オ 成果と課題

(ア) アンケート結果より

① 事業所

○事前アンケート【41事業所】	○事後アンケート【41事業所】
1. 職場の受入について (1) 受け入れたい 21社 (2) 検討したい 14社 (3) 今後も受入しない 6社 2. 職場体験の日数について (1) 3日間でも可能 23社 (2) 2日間なら可能 8社 3. 職場体験での仕事内容について (1) 固定化したほうが良い 12社 (2) その都度協議したほうが良い 25社 4. 職場体験の協力企業の登録制について (1) 登録制度にしたほうが良い 24社 (2) その都度協議したほうが良い 14社	1. 3日間の日数について (1) ちょうど良い 33社 (2) もう少し長くても良い 4社 (3) もう少し短いほうが良い 4社 2. 生徒の取組について (1) 意欲的だった 22社 (2) まあまあだった 18社 (3) 気になるところがあった 1社 3. 3日間での生徒の変化について (1) 大きな変化があった 3社 (2) 少し変化があった 33社 (3) あまり変わらなかった 5社 4. 考えさせるテーマを与えたか (1) 生徒に任せていた 19社 (2) 生徒が自分で考えていた 3社 (3) テーマを与え考えさせた 19社

※ 事前アンケートによる受入をしない事業所は、安全上の問題がネックとなっている。日数については、もう少し伸ばしても、事業所側としては、問題ないという感触を得た。また、ほとんどの生徒が、この社会体験で何らかの変化をしたと事業所側から報告されたようである。

② 生徒

○事前アンケート【106名】	○事後アンケート【106名】
1. 社会体験のイメージ（複数回答） (1) 大変そう 69名 (2) きつそう 29名 (3) 面倒くさい 12名 (4) 楽しそう 40名 (5) 勉強になりそう 37名 (6) 緊張しそう 60名 2. 14歳のよのなか挑戦への興味・関心 (1) ある 49名 (2) ない 47名 (3) どちらでもない 10名 3. 社会体験に必要なと思う力は ・精神的な面 やる気 責任感 ポジティブ 根性 緊張感 集中力 笑顔 挑戦 態度 話を聞く 興味を持つ 素直さ 大きな声 積極性 適応力 ・能力的なこと 覚える力 体力 行動力 言語力 声量 聴く力 整理整頓 注意力 協調性 対応力 観察力 知識・技能 判断力 迅速な行動 ・物理的なこと 基本的な身なり お金 4. 不安なことがある (1) ある 37名 (2) ない 69名	1. 自分のためになったか (1) そう思う 102名 (2) 思わない 4名 2. また行いたい (1) そう思う 92名 (2) 思わない 14名 3. チームワークは必要だと思うか (1) そう思う 92名 (2) 思わない 14名 4. 中学校の学習や体験は社会でも通じると思うか (1) そう思う 92名 (2) 思わない 14名 5. 自分が社会に出るまでに身に付けておきたいと思ったことはどのようなことか。 （複数回答） 挨拶、身なり、言葉遣い 75名 礼儀 33名 コミュニケーション能力 32名 行動力 24名 積極性 14名 気配り・思いやり 11名 笑顔・明るさ 10名 チームワーク 9名 学力 9名 判断力 8名 真面目さ・ルール 6名 自主性 6名 集中力 5名 臨機応変さ・適応力 5名

※ 事前アンケートでは、大変そう、きつそう、面倒くさいというネガティブなものが多かったのに対して、事後は、自分のためになった、またやってみたいが大多数をしめ、生徒自身がこの社会体験の有用性を感じているという結果だった。また、中学校で学んでいることは社会でも通用すると思った生徒の率がとても高かったことも注目すべきであると感じる。

(イ) 成果と課題

- 今回、はじめて、学校主体ではなく、日向市商工会議所と日向市キャリア教育支援センターの三者連携で行なえたことで、下記のような様々な成果やメリットがあった。
 - ・ 今までのとりあえず経験させる体験から、可能な範囲で普段どおりの仕事を体験できた。「中学生」として受け入れるのではなく、「新入社員（無償のアルバイト）」に近い形での受入）
 - ・ 今までは、費用の面で断念していた遠方での体験が、協力事業所の会の資金で行なえた。
 - ・ より事業所側と細かい話ができ、本音の話ができるようになり、協力の依頼等が行ないやすくなった。
- 生徒の事後アンケートにもあったように、学校で日常行っている指導が、社会でも通用するということを生徒たち自身が、職場で再確認できたことで、今後の学校での指導の入り方が違ってくると感じている。
- 慣れた相手や場所、シチュエーションでは通用する礼儀、所作についても、本物の社会では、まだ全く不十分であると感じた。
- 自ら考えて、行動させる指導を今まで以上に多く取り入れる必要を感じた。
- 誰でも進められる社会体験学習（職場体験学習）を模索していたが、マニュアル化の域まで達することができなかった。

(ウ) 来年度以降への提言

- ① 協力事業所の会で、事業所の方から事前学習の時に各事業所がブース形式で自分たちの仕事を生徒に教える機会があると、「14歳のよのなか挑戦」当日がもっとスムーズに」いくのではないかという意見がでた。今までは、遠慮から、事業所にそこまでのお願いができなかった、「協力事業所の会」のメンバーであれば実現可能と考える。
- ② 保護者も、それぞれ職業に就いているわけで、この保護者の職業をうまくキャリア教育に使えるとおもしろいのではないかと考える。
- ③ 泊り込みや早朝（午前3：00～など）からの作業をともにやってこそ、本当の職業についてわかることがあるので、どうでしょうという話もあった。保護者の承諾があった家庭の生徒から選ぶということも考えられるが十分な検討が必要である。

生徒作文

「よのなか挑戦で学び見つけた生き方」

体験事業所；華りん

体験者；田中りりあ、中山雛那

私は「花工房華りん」という職場で、3日間働きました。華りんでは花束やラッピング、お葬式の会場設営などを行っています。

そこで私が体験して感じたことは「筋力や体力がとても必要」ということです。花を水に入れたまま運びます。花と水の量が多く、とても重たいです。それを作業場でまで何往復も運ぶのでとても疲れます。また、掃除でも体力を使います。作業場の床一面に茎と葉、その他のゴミが大量に落ちています。これを1日に何回も掃除するので疲れます。だから、私は筋力や体力が必要だと感じました。

次に私が「華りん」で学んだことです。それは「やることすべてに意味がある」ということです。

花の水を替える作業をしていた時のことです。担当の方が「花の茎は水中で切ります。理由は水を吸いやすくするためです。こうする事には意味があります。」と言いました。この時私は、私達のやっていることすべてに意味があるのではないと思いました。社会体験をしているのも、学校で勉強しているのも、家の手回しをすることにも意味があるのかと思いました。私はこの言葉を聞くまで、学校には行かないといけないからと思って毎日を過ごしていました。でも学校に行くのは、将来の夢や目標を叶えるために学習し、集団行動や規則を守る癖をつけるためという意味があるのかもしれない。家の手回しをするのも親の負担を減らすことはもちろん、手回すことで家事のやり方を覚え、自立した時に困らないようにという意味もあるのかもしれないと気づきこれからの人生、何かに挑戦することがあったら、なぜこの事に挑戦するのかという意味を考えたんです。そして、迷った時は「やることすべてに意味がある」という言葉を思い出して毎日一杯生きていきたいです。